

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0891200065		
法人名	社会福祉法人 翔馬会		
事業所名	グループホームすぎの木		
所在地	茨城県常陸太田市徳田町307		
自己評価作成日	平成30年 1月 3日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891200065-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成30年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者とのふれ合いを重視し、1人ひとりの生活リズムやこだわりを優先した暮らしができるよう支援しています。
元は小学校の分校という恵まれた環境を生かし、畑つくりや近所への散歩・外出や季節のイベントに参加することで、季節の移ろいを感じる暮らしをしています。
協力医院や協力歯科や訪問看護ステーションとの連携を重視しており、医療面でも安心して利用できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな旧小里小分校跡地にあり、敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。庭やウッドデッキでは桜の花見ができ、施設内に居ながら季節を楽しむ事ができる。地域医療の拠点となっている同一法人の協力医療機関とは連携が密にとれており、理事長は日本医師会の赤ひげ大賞の受賞者である。月2回の訪問診療や週2回の訪問看護があり、利用者や家族等の安心につながっている。かかし祭りや文化祭、地元の長男会の夏祭りに参加し、幼稚園の運動会やクリスマス会に招待されている。2月から11月までは、旧水府村にある「こしらえ館」において開催されている陶芸教室に通い、干支の置物やコップ、お皿を制作し、秋の芸術祭に出品している。敷地内にある畑ではトマトやキュウリ、茄子、カボチャなどの作物を種から作っており、利用者の楽しみになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員たちの意見を確認して理念を作成し、施設内に掲示している。個別援助の話合いの時には、理念に基づいた解決方法を話し合っている。	月に1回のミーティングやケース会議などで、問題にぶつかった時など、必ず理念に立ち返って、全職員で共有している。地域とのぎずなを大切にできるよう、地域とのつながりが持てるように、地域の集まりや作品展に出展するなどの支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	かかし祭りや文化祭など地域のイベントへ参加したり、村社への初もうでなど季節の行事に出掛けている。 地元の長男会が夏祭りを開いたり施設の避難訓練に近隣の方にも参加していただいている。	事業所敷地隣がグランドゴルフ練習場となっており、利用する地域住民にお茶を提供すると、お礼に事業所敷地の草刈りを申し出てくれるなどの相互交流がある。長男会のBBQに使ってもらい、利用者もそこへ参加することがある。保育園の運動会やクリスマス会に毎年招かれて園児たちと交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事務室に認知症サポート相談窓口を設置している。 地域の住民との交流時に、認知症の方の理解につながるような話をするよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の近況を報告して、参加者からご意見をいただきサービスの向上に努めている。	定期的開催し、委員から意見をもらい、運営に活かしている。事業所近くを流れる川で過去に水害があったことを委員から聞き、助言を受け、水害対策に力を入れるようになった。水害時の避難先や避難経路の確保、水害時を想定した避難訓練を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡協議会において、市の担当者から情報の提供を受けている。 分からない事があたら、必要に応じて市の担当者に相談している。	市の担当者とは、おもにメールや運営推進会議を活用して情報交換を行っている。事務手続きの確認や相談など細かいことでもやりとりを行ない、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施し、職員は身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除に関するマニュアルを整備し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいるが、研修を行うまでには至っていない。	全職員が身体拘束について学び、身体拘束を行わないケアに繋がられるよう研修を行うことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施している。介護していくうえで職員のストレスを軽減するために、ミーティングで介護方法を話し合ったり気付いたことを書いてもらって情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。入居者や家族の状況や申し出をみて、制度の紹介や説明をするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書に沿って、分かりやすい言葉や表現に気を付けて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関にご意見箱を設置し、苦情窓口についての案内も掲示して契約時にも説明をしている。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明示するとともに、玄関に意見箱を設置している。年に数回家族アンケートを行い、運営推進会議やミーティング時に出た意見について話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや改善提案書で職員が意見や提案を行える機会を設けている。個人面談の際に意見を聞いている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、職員会議や面接時に話を聴いたり、改善提案書で意見が出せるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は毎年自己目標を設定して年度末には自己評価をしてもらい、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内と全体で毎月勉強会を行っている。 外部の研修にも参加しているが、自分の休日に研修に行く場合には、研修補助を出す制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常陸太田市のグループホーム連絡協議会に参加しており、定例会や研修会を通して他の施設との情報交換等を行ってサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始時には、ご本人から今までの生活や現在の困りごとなどを聞き、ご本人が不安や不信感を抱かないように注意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に必ずご家族にお会いし、今までの生活や現在の困りごとなどを聞いたうえで、事業所のサービス内容や方針を説明し、施設内の見学を勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況によっては、様々な選択肢があるということを説明している。また、入居される場合のご本人の不安な気持ちに配慮し、なじみやすい環境づくりをご家族にも協力していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事を見つけて、それを生かし自信を失わずに生活してもらえるように支援しています。家事や畑仕事を一緒に行ったり、地域の事や昔の話を聞く事をして関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の家族には、入居者の日頃の暮らしを報告したり、イベントへの参加を呼び掛けて、本人と家族のより良い関係を考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や近所の方の面会や家族への電話が遠慮なくできるよう対応している。入居者の馴染みの商店や床屋を把握し、可能な限り関係が途切れないよう支援を行っている。また、同法人他事業所の利用者と交流する機会を設けている。	入所時に本人や家族に確認して聞き取り、フェイスシートに記録してファイリングしている。職員が同行して馴染みの理美容院へ出かけるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、席の位置に配慮している。職員は入居者の間に入り話題をつくり皆が楽しめるようにサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居の契約時に重要事項説明書にてご説明をしている。必要に応じて相談や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向を尊重し、希望に対して否定せず、出来る限り実現できるよう努めている。把握が困難な入居者には、表情の変化などに注意し、思いや意向を読み取り対応するように努めている。	利用者それぞれの「気付き記録」を作成し、要望等があれば記録して、職員間で共有している。思いを表出することが困難な利用者の場合は、手を動かす仕草や表情で読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からだけでなく、利用していた事業所やケアマネージャーから情報を出来る限り収集し、本人との会話の中からこれまでの暮らし方を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの1日の過ごし方を観察し、本人の出来る事や出来ない事、心身状態が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族双方の意向を考慮し、サービス担当者会議やモニタリングを行い、介護計画の作成を行っている。また、担当の職員と、入居者の状態を話し合い、ケアプランに反映させている。	家族等や利用者の意向を聴き、医療関係者や職員と話し合い、計画書を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や状態、気づきを個人記録に記入し、特に気になる事や、重要な事は申し送りノートを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思い、希望に配慮し、自宅の様子や入院中の様子を見に行くなど、可能な限り柔軟に対応できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園との交流や、地域の文化施設で陶芸作りをして楽しんでいる。また、ボランティアの方を招いて料理や手芸をしたり、イベントを楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診は家族が付き添っているが、状態の変化等で必要な場合は職員が同行し主治医に報告している。家族の付き添いが困難な方は、定期的な訪問診療にて対応している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能であることを説明しているが、現在はほとんどが協力医療機関で受診している。医師とは口頭で情報をやり取りしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態や身体状況の観察に努め、状況に応じ、契約している訪問看護ステーションの看護師や、協力病院に報告や相談する体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、職員が面会に行ったりして情報交換や状況把握に努めている。また、訪問看護ステーションへの連絡や相談をすることで、体調の変化に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合及び看取り介護に関する指針」「医師や医療機関との連絡体制」についてご家族に説明し、同意を得ている。また、その際重度化した場合や、終末期のあり方を親族と話し合っている。状態が悪化し看取り介護に入る際に看取り介護の説明を行い同意書を得ている。マニュアル等整備し、勉強会を行っている。	「利用者の重度化した場合及び看取り介護に関する指針」があり、家族等に説明して同意を得ている。マニュアルを整備し、外部研修や内部研修を行っている。主治医からの看取りの話が出た時にカンファレンスを行い、家族の同意書を取り、その後も状況に応じて話し合いの場をもっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人や事業所内での勉強会を開催しており、緊急時の対応マニュアル等も整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を計画し実施している。地区の消防団や近所の方々にも避難訓練実施の案内をすることで、参加協力いただいている。また、事業所内に保存食や飲料水を備蓄し、自家発電機を備えている。	一覧表を作成して備蓄品を管理している。近隣住民の協力を得て、同敷地内の小規模多機能施設と合同開催しているが、ここ数年、夜間帯を想定した避難訓練を行っていない。	職員が手薄になる夜間帯を想定した避難訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や個人情報保護についての勉強会を開催している。個人情報の保護に関しては、入居者及び家族と同意書の取り交わしをしている。また、入居者の過ぎてきた人生を知り、尊敬の気持ちを持って接する事に努めている。	管理者は日頃から職員に言葉遣いの大切さについて、話しをしている。人権尊重や守秘義務について内部研修を年1回行っている。個人情報に関する書類は鍵のかかる書棚に保管し、玄関には個人情報に関する基本方針を掲示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々入居者とゆっくり接する時間を持つように努め、入居者側からも本当の気持ちが出やすい雰囲気作りをしている。また、入居者の状態や心理に合わせて、自己決定の機会を多く持つように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者の気分や希望に配慮し、天気や季節に応じて柔軟に対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じ訪問理容サービスの支援を行っている。また、衣類等も季節や寒暖やこだわりを十分に配慮し、更衣のお手伝いをしている。家族の承諾を得て、足りない衣料品などへの買い物の付き添いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の前の畑で入居者が作った野菜や、地元の食材を使い、味見から調理、配膳など入居者が出来る事を生かして食事を作り、片付けもしている。献立予定表はあるが、その日の希望を聞き、作るようにしている。職員も一緒に食卓を囲み食事をしている。	自家菜園で利用者が作った野菜を食材に取り入れて、献立を作成している。利用者は野菜の皮むきやテーブル拭き、盛り付けなど、出来ることを職員と一緒にしている。外食や季節毎の行事食を提供し、食事が楽しめるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼状態に合わせた食事、水分形態を工夫している。摂取量が少ない時は、記録に残し、好みのものを提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの入居者の歯ブラシや口腔ケアポンジを用意し、毎食後の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄リズムの把握と身体状況に合わせた排泄介助を行っている。日中はほとんどの入居者がトイレで排泄できている。	一人ひとりの排泄パターンに合わせた声かけをして、トイレ誘導し、排泄の自立に向けた取り組みをしている。おやつに寒天や牛乳を提供し、スムーズな排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認している。便秘傾向にある入居者に対しては、水分補給も兼ねて寒天などのお腹に良い食品の摂取や適度な運動の機会を提供し、食事野菜中心のメニューを取り入れている。また、トイレに座る機会を持ってもらえるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴の予定は立ててあるが、入居者の希望や心身状態によりその都度対応している。なじみの生活リズムに合わせて入浴できるようにしている。入浴が困難な時も清拭や手浴、足浴等を行い、清潔の保持を努めている。	基本週3回、午後からとなっているが、利用者の意向にそっていつでも入れるよう支援している。状況に応じて、シャワーで洗髪のみ行ったり、足浴対応をしたり、就寝前に入りたという利用者の意向に応えることもある。季節感を味わえるようゆず湯等を行っている。浴室脱衣所は目立つ赤い手すりを設置し、安全面に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、不安で眠れない入居者には居間で職員が付き添い、安心してもらう様に努めている。日中は本人の希望や体調に合わせて昼寝をするなど配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬剤情報は現場で職員がいつでも確認できるようになっている。薬の服薬、管理についてはマニュアルを作成して事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来る事を生かし、それぞれに簡単な家事の手伝いなどを行っていただくようにしている。また、外出や散歩、畑仕事や草引きなど一人一人の習慣や楽しみに合わせて、職員が付き添い行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出やイベントへの参加は、出来る限り入居者の希望に沿うように努めている。会話の中で出た希望で当日困難なものは、後日、予定を決めて行うように努めている。	小学校の分校跡地であり、広い敷地内を散歩したり、ウッドデッキの椅子に座って外気浴や花見をするなど、豊かな自然の景色を楽しんでいる。近くのお堀に鯉を見に散歩することもある。年間行事計画を立てて、果物狩りや動物園等へ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者、家族の希望によりおこずかい程度の現金や自分で財布を所持している方もいる。事業所でお預かりしている個人のお金を使って外出時にお買い物などできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話が使用できる。親戚の方などへの年賀状や、お返事を書くお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家のリビング、茶の間のような環境を意識して環境づくりをしている。また、季節の行事や風習に合わせて、その都度飾り付けを変えている。	小上がりの和室には炬燵を置き、寛げるようになっている。エアコンの風が直接当たらないように布でさりげなく風除けを取り付け、加湿器を設置して温度や湿度管理を心がけている。大きな掃き出し窓から光が差し込んで明るく、自然の景色を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと和室にテレビを置き、ソファや座椅子でそれぞれがその時の気持ちでくつろげる環境を作っている。また、入居者同士の性格や相性に配慮し、席やテーブルの配置を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や毛布などを居室に持ち込んでいただいている。居室の整理などは入居者と一緒に行い、過ごしやすく生活感のある居室づくりに努めている。	壁にコルクボードを備え付けて、写真や年賀状などを掲示し、見やすいように工夫している。湿度や温度を適度に保ち居心地良く過ごしやすい空間にしている。利用者はそれぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事に関してはそっと見守っている。また、日々の観察から手助けや工夫によりできる事を増やしていけるように努めている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名グループホームすぎの木

作成日 平成 30年 4月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	全職員が身体拘束について学び、身体拘束を行わないケアに繋がられるように研修を行うことを期待する。	身体拘束についての内部研修を行い身体拘束を行わないケアに繋がられるようにする	平成30年3月のミーティング時に身体拘束の勉強会を行う	達成済み
2	35	職員が手薄になる夜間帯を想定した避難訓練の実施を期待する。	夜間想定避難訓練を行い避難誘導や非常連絡方法について再確認する	平成30年4月9日に隣接の事業所と合同で夜間想定避難訓練を行い避難誘導、非常連絡等を再確認する。又、水消火器を使用して消化訓練を実施する。	達成済み
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。